

当 面 の 技 術 対 策 (畜産編)

令和元年9月15日

発行：ゆとりみらい21農業推進協議会指導部会

1 サイレージ用とうもろこしの収穫

本年のサイレージ用とうもろこしは、子実の登熟が早く経過しています。また、ごま葉病とすす紋病の発生も散見されます。ほ場を巡回して、子実の登熟を確認し適期収穫のため、以下の点に留意しましょう。

(1) 生育状況を確認しましょう

ほ場条件や肥培管理により、同じ品種でも登熟に差があります。また、すす紋病等の罹病程度によっても作業の順番が異なります。各ほ場について、子実の熟度や枯れ上がり状況を確認して、作業計画を立てましょう。

(2) 鋭利な切断長の確保

ハーベスタの刃の研磨は1日1回以上行いましょう。鋭利な切断面にするこ
とにより、廃汁による栄養価のロスを軽減し、発酵品質の向上が期待されます

(3) 適切な切断長での収穫

適切な切断長は、コーンクラッシャの有無と熟期によって異なります。

・コーンクラッシャ無しの切断長

糊熟期～黄熟期：10mm前後 完熟期や霜害ほ場：6～9mm

・コーンクラッシャ付きの切断長とローラ幅

糊熟期：設定切断長は10mm前後 ローラ幅は最大

黄熟期：設定切断長は最長 ローラ幅は3～5mm

完熟期：設定切断長は最長 ローラ幅は1～3mm

※茎葉の枯れ上がりが激しく踏圧作業に支障が出る場合は切断長を短め(例10～12mm)に設定

2 粗飼料成分分析をおこないましょう

各地域で、粗飼料の切り換え時期を迎えています。

本年、1番牧草は平年より3日早く収穫終となりましたが、萌芽期(4月)以降の気象経過(高温・少雨)から生育ステージは進んでいる(牧草の栄養価が低い)ことが予測されます。牧草の成分を正確に把握するためにも、粗飼料分析をおこないましょう。また、乳牛の泌乳ステージに応じた栄養要求量を充足するエサを調整給与しましょう。